

# 在宅酸素療法を実施している 患者居宅で発生した火災による重篤な健康被害の事例

一般社団法人 日本産業・医療ガス協会  
在宅酸素部会

当協会会員会社において、平成15年10月以降に発生した「在宅酸素療法実施中の患者居宅で発生した火災による重篤な健康被害の事例」を調査・集計しましたのでご報告します。

各会員会社では、在宅酸素療法を行う患者様ならびにご家族に対し、機器設置および定期点検などの機会に、安心して安全に使っていただけるよう機器の使用方法および注意点などについてご説明しています。

また、一層の安全対策が図られるよう、酸素吸入中の喫煙および火気の危険性を充分説明し、火災事故防止に引き続き努めてまいります。

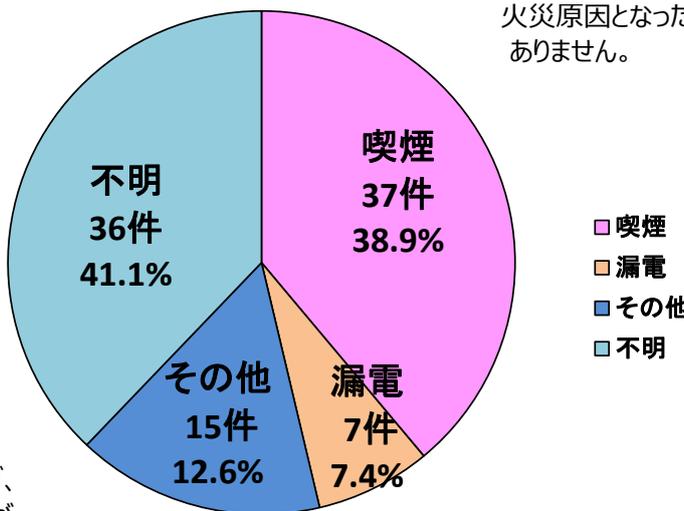
<報告の基準>

「在宅患者居宅で火災が発生し、患者様が死亡ないし重体もしくは重傷を負った場合」  
(火災の発生を喫煙のみに特定せず、原因が特定できない場合も含む。)

## 火災事故原因別の分類

\* 不明の中には、  
出火場所が不明  
の事例も一部含  
まれます。

\* 酸素供給装置が直接の  
火災原因となったことは  
ありません。



\* その他の中には、ストーブ、  
線香、台所、ろうそく等が  
含まれます。

(全95件の火災事故の原因別分類)

(-)日本産業・医療ガス協会 在宅酸素部会まとめ (令和4年5月末時点)

No	発生年月	場所	年齢 (性別)	被害状況	原因(推定含)
1~75	平成15年~平成30年11月			死亡 71件、重症 4件	喫煙、漏電、ストーブ他
76	平成31年1月	兵庫県	70代 (男)	死亡 (焼死)	(不明)
77	平成31年2月	東京都	60代 (女)	死亡 (焼死)	電気ストーブ引火
78	平成31年2月	兵庫県	90代 (男)	熱傷	喫煙
79	平成31年3月	京都府	80代 (男)	死亡 (焼死)	(不明)
80	令和元年8月	鹿児島県	80代 (男)	死亡	(不明)
81	令和2年1月	香川県	80代 (男)	死亡	電気ストーブ引火
82	令和2年3月	埼玉県	80代 (男)	死亡	こたつから出火
83	令和2年7月	千葉県	50代 (男)	死亡	(不明: 煙草か)
84	令和2年7月	兵庫県	80代 (女)	重症 (火傷)	こたつから出火
85	令和2年12月	広島県	40代 (女)	死亡	(不明)
86	令和3年2月	沖縄県	70代 (男)	死亡	(不明)
87	令和3年2月	鹿児島県	80代 (男)	死亡	喫煙
88	令和3年4月	兵庫県	80代 (男)	死亡	電気ストーブから出火
89	令和3年6月	愛媛県	90代 (女)	死亡	(不明)
90	令和3年7月	石川県	60代 (男)	死亡	喫煙
91	令和3年10月	滋賀県	60代 (女)	死亡	喫煙
92	令和3年11月	東京都	70代 (男)	死亡	(不明)
93	令和3年11月	広島県	60代 (男)	死亡	(不明)
94	令和4年1月	山形県	60代 (男)	死亡	(不明)
95	令和4年4月	茨城県	80代 (男)	死亡	(不明)

※94・95は新規記載



火気厳禁



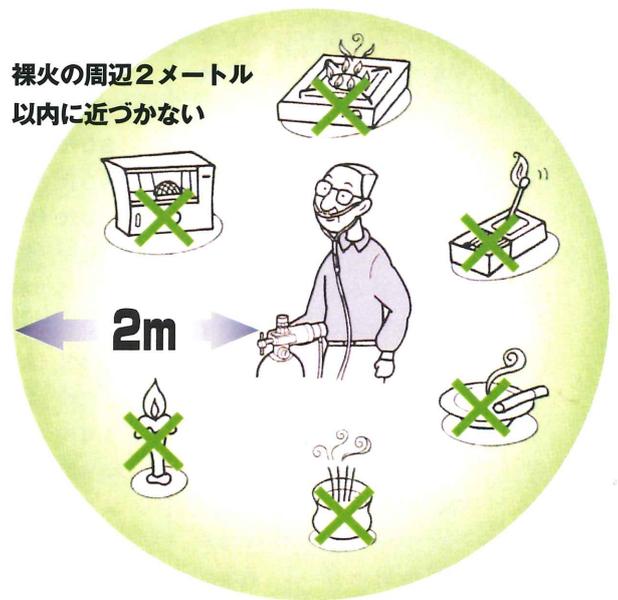
禁煙

## 在宅酸素療法での火気との距離制限

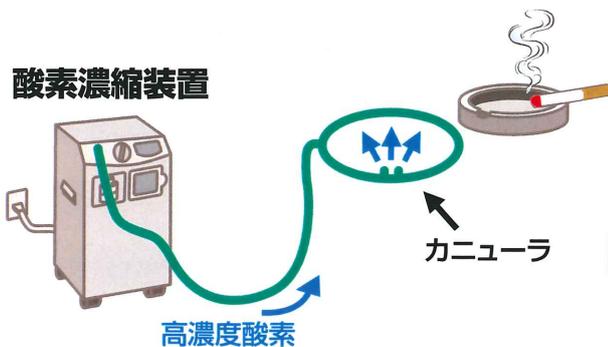
1. 酸素濃縮装置、酸素ボンベ、液化酸素容器からは …… **2m 以上**

2. 液化酸素を設置型装置（親容器）から携帯型装置（子容器）に移充填するときは …… **5m 以上**

3. 吸入用のカニューラ、携帯型の酸素ボンベや液化酸素装置及び延長チューブ、吸入中の患者自身も火気の**直近**に近寄ってはならない



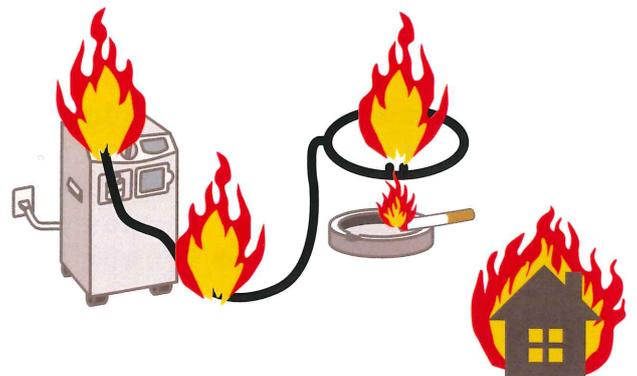
酸素濃縮装置



カニューラ

一度消えたはずの火が、再度点火することもあります。

タバコなどの火が近付いた場合



一度火がつけば、すごい勢いで火が燃え移ります！

出典：(独) 医薬品医療機器総合機構 医療安全情報 No4 2008年6月

※ 火気の手扱いに注意し、取扱説明書どおりに正しく使用すれば、酸素が原因でチューブや衣服等が燃えたり、火災になることはありません。